

Fukui Teachers' Union  
学校を知る、  
教育を知る。

# 小学校の英語教育、 人材と環境の充実を！



2020年の東京オリンピック開催を見据え、英語教育が本格化しています。福井県内では先行して取り組んでいる勝山市で、小学校の英語教育の現状を伺いました。

— 英語の授業はどうなっていますか？

— 授業で工夫されていることは？

**白崎** 3、4年生は外国語活動として週に1時間(年間35時間)、5、6年生は英語科の授業を2時間(年間70時間)行っています。文科省と福井県の教材等を使い、年間計画に沿って授業しています。

**白崎** 授業の導入部分ですね。どんなことをするのかを教師がモデルを示す際には、リアクションやジェスチャーを大きくするように心がけています。

**島田** 楽しく取り組めるように、歌やリズム、ゲームなどを取り入れていきます。勝山市には英語活動の支援員がいて、担任と2人で授業をし、教材の相談もしています。一学期は、白木さんにもお世話になりました。

**白木** 勝山市は文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受けていて、市内9小学校で英語専科教員1名、

外国語活動支援員2名が活動しています。情報も共有しています。

— それは助かりますね。ところで、先行実施されていかがですか？

**島田** 研究授業の時は、教材の準備が大変でした。クリスマスパーティーに必要なものを買いに行くという設定のために、子どもたちと一緒に品物の絵カードを200枚以上作りました。いい経験でしたが、日常生活で使う絵カードの種類がもう少しあると普段の授業でも助かります。

**白木** 現状では教材やカードなどは、各学校で印刷して作ることが多いです。分かりやすい授業のために教材ツールはとても重要なので、先生たちと試行錯誤しています。

— 英語が本格実施になると、他にどんな課題が出てくるのでしょうか？

**白崎** 私自身は大学で専門的に学んだので抵抗はありませんが、特に会話が心配という先生方はいますね。校内で

も研修会を開いて対応しています。

**島田** 評価の研究も重要です。授業が終わると振り返って記録を残したり、1対1でインタビューテストもしています。

— 英語教育が活かされたと感じたことはありますか？

**島田** 修学旅行で、子どもたちが積極的に外国の方に話しかけていました。相手に自分の英語が通じたことをとても喜んでいる様子で、学習意欲が高まったようです。

— 言葉は人間関係を築くツール。それを実感できた時の喜びは大きいでしょうね。

**白木** 小学校では英語に慣れ親しむことが第一です。英語専門の教員だけではなく、子どもたちのことを一番分かっている担任が共に授業することが大切だと思います。

**島田** 私は社会科が専門で、白崎先生のように英語を上手には話せないのですが、子どもと一緒に楽しもうというスタンスで、授業中は白木さんに質問

もしています。

**白崎** あとは、子どもが共感できる内容を提示できるかですね。どんな場面に設定するか、映像や資料に何を選ぶかで、興味関心の度合いが違ってきます。

— 小学校はクラスの状況によって教え方も違うので難しいでしょう。白木さんのような支援してくれる方が一緒にいると心強いのですが…。

**白木** 勝山は英語教育の強化地域で执行的な取組を研究しているので、特別に配置されているようです。

**島田** 支援員さんたちは、担当しているクラスごとに内容も異なるので本当に大変ですが、一緒にできてとても助かっています。お互い時間をやりくりして、授業前には必ず打ち合わせをしています。時間的に余裕があればもっとじっくり取り組めるのにと残念です。

— コミュニケーションの必要な教材は特に、さまざまな場面でマンパワーが必要です。そして新たな試みには教材の充実も欠かせません。県教組としても、人員の確保と現場の意見を汲んだ教材の充実を、県に要望していきたいと思っています。

**【小学校の英語教育】**  
現在は5、6年生で、「外国語活動」として実施されている。文科省では2020年度に3年生から必修化とし、5、6年生は通知表に数値による成績を記載する「教科化」を予定。



**島田 義也** 教諭  
(勝山市村岡小学校5年生担任)



**白崎 摩己** 教諭  
(勝山市村岡小学校4年生担任)



**白木 富貴子** さん  
(勝山市外国語活動支援員)

